

## 花田昌宣先生と水俣学

井上 ゆかり

熊本学園大学水俣学研究センター研究員

花田昌宣先生、宮北隆志先生、東俊裕先生という3人の巨匠が2023年3月をもって熊本学園大学（以下、本学）を退職された。水俣学研究の今号は先達の退職記念号とする。どの先生にも学部時代から教えていただき様々なエピソードがあるが、ここでは私が学部のゼミから大学院でも主任教授であった花田先生と水俣学について書かせていただこうと思う。

花田先生は先に述べたように本学を退職されたが、いままシニア客員教授として在籍していただいている。フランスの大学で10数年にわたり経済学講師を務められ、1994年に本学社会福祉学部の社会政策の担当として着任された。その後2000年に新たに設置された、社会福祉学部社会福祉学科に所属され、社会政策Ⅰ、就労支援論、経済学Ⅱ、福祉環境と政策、現代の福祉国家、福祉キャリア特講、環境社会論、水俣学講義、ハンセン病講義、福祉環境学入門、福祉環境学演習、卒業演習、災害と社会、災害と社会（演習）、大学院指導など、当センターが把握しているだけでも相当な科目を担当してこられた。加えて、本学には第二部があり、夜間の講義、大学院のフィールドワークⅠ（水俣）、Ⅱ（国内）、Ⅲ（海外）も担当されていた。本学に着任当初は、数年後に他大学に移籍する予定だったそうだが、1999年に原田正純先生を本学に迎え、水俣学研究プロジェクトを始動させるため残られた。同学部の学部長を2002年から2005年まで2期務められ、同学部で「福祉環境学」という専攻名で学部から大学院まで水俣学の研究が体系的にできる教育環境を整えられた。

2005年に水俣学研究センター（以下、センター）が本学に設置され、先生は、2008年1月から事務局長を担われた。センター設立と同時に研究員（当時は研究助手）を務める田尻によれば、当初は事務局長という役職はなかったという。しかし、原田先生が「花田君が実質担っているのでつけておいたほうがいい」とのことで事務局長を務めることになられた。原田先生が退職されたあと2010年からセンター長を務められ、退職なさるまで水俣学をけん引された。先生は、2006年に新日窒労組の元組合員の方々へのヒアリングをベースにした討論研究会として「チッソ労働運動史研究会」や、2013年に海辺の生き物や土壌などの調査をする「みなまた地域研究会」を水俣の市民や研究者らと立ち上げられた。また、2015年には「水俣病事件資料集編纂委員会」を研究者や記者らと立ち上げ、水俣病研究会編『水俣病事件資料集1926-1968』の続刊を刊行するため資料調査研究会を継続しておられる。これらの成果として、『さいれん復刻版』（柏書房、2010-2012年）や『水俣に生きた労働者 — チッソと新日窒労組の59年』（明石書店、2021年）を残された。

先生は、マルクス経済学の平田清明に師事し、もともとは経済理論が専門で水俣との関わりはないように思われる。しかし、先生が水俣との関わりを「ライフワーク」と表現され、

そのはじまりを『水俣学講義』で語っておられるので少し触れてみたい。熊本水俣病第一次訴訟で原告の患者が全面的に勝訴する1973年、名古屋で大学1年生だった先生は「これは何事か」ということで関わりをもつようになったという。一次訴訟判決後、名古屋には被害を訴える当事者はいなかったが「誰その妹は名古屋にいる」と聞こえてきた。そこで、愛知や岐阜に移り住んだ水俣・芦北出身の方々を1軒1軒訪ね、生活や病歴を聞き取り、原田先生に名古屋に来てもらい検診を受けてもらうことや、公健法上の水俣病認定申請や行政不服の支援をして、60家族100名の患者の集まりを作っていた。なかには、体調が悪化し仕事もできない被害当事者の生活保護申請も手伝ったという。この時の仲間が「名古屋水俣病を告発する会」であり、このメンバーは今も名古屋で行政不服審査請求の支援を行い、水俣病事件研究交流集会で名古屋の現状を報告してくれている。このように道行きをともにする仲間を大事にされている。

さて、先生の調査や資料保存に対する姿勢について触れておきたい。先生は2004年から原田先生とともにカナダ水俣病の調査に6回行き、カナダから被害当事者や支援者、研究者を招きシンポジウムをするなど関係が続いている。原田先生亡き後も調査が続いているのは、水俣学の理念のひとつである「国境を越え、国内外への発信と世界に開かれた学問の形成を目指して」きたからにはほかならない。これを継続するには科研費などの研究費を取得し続けねばならず、かなりの労力があるが、花田先生はこれを続けてこられた。

資料の収集・保存に関する先生の考えは、先に紹介した『水俣に生きた労働者』のあとがきに記されている。「私は、これまでの様々な経験から、紙媒体だけが記録として残されることへの悔しさがあり、できる限り物品類も保存したかった。(略)活動を彷彿とさせるものも語らぬ資料として保存されるべきであった。」とあるように、水俣市にある水俣学現地研究センターには先生の強い信念のもと看板からもさしに至るまで保存されている。この整理作業を新日窒労組の元組合員の方々と5年もの歳月をかけ実現できたのは、先生が組合の研究會だけでなく、全国巡回資料展で元組合員を準備スタッフとし、説明スタッフとして東京や大阪の展示会をともにする、書籍を刊行すれば地元で記念シンポジウムをするなど組合の方々を主体とした仕掛けをしてこられたからにはほかならない。

先生のかつての研究フィールドであるフランスへ社会的企業の調査に行った。朝7時30分から調査に繰り出し、時には昼や夕食まで調査対象の方々と食事をしながらヒアリングをすることもあった。調査の最終日はゆっくりできるかと思えば、それまでの調査漬けがたたり、先生をはじめ調査一行の具合が悪くなり寝込むこともあった。先生は、現場の方々との関係をつくり、調査後も関係を続けることに力点をおかれ、自分たちが知りたいことをただ聞いて帰る収奪型の調査は決してされない。これは水俣学の理念にも活かされている。

ところで、タイのバンコクから車で2時間ほどの場所にマプタブットという工業団地があるのはご存じだろうか。社会福祉学専攻大学院のフィールドワークで、修士の学生と教員らがグループをつくり工業団地周辺に暮らす人々の被害調査を行ったことがあった。炎天下のなかを歩き続け、ようやく夕食にありつけたと思えば、花田先生が「各グループで調査した

報告会をしないと次に活かさない」と言い出される。夜の11時である。このようなことは熊本県天草市御所浦町での調査でもあり、先生との調査はいつも疲労困憊となるものだった。しかし、これが現場を歩くことだと身をもって教えていただいた。

このように、先生の調査に同行することで後にハッとさせられることも多かった。社会福祉学専攻大学院フィールドワークの事前調査で沖縄に行った時には、糸数アブチラガマ（防空壕）に入り、当時ガイドもないなかで先生が懐中電灯を持ち先頭を歩いておられた。突如懐中電灯を消され真っ暗となった。パニックである。「ここにいた人たちの思いを考える」と先生の声が聞こえた。考えるなら自分だけにしてほしいと言った記憶があるが、いま思い返せばこの出来事によって「被害当事者に共感するとは何か」を考える機会になり忘れ得ぬ場所となった。

最後に、先生の被害当事者に対する眼差しを記しておきたい。2016年熊本地震の時、本学は指定避難所でないにもかかわらず自主的な避難所を24時間体制で45日間運営した。宮北先生が本学避難所の本部長、花田先生が避難所の運営本部統括、東先生が自宅から大きな炊き出し用具から食料までを運び、とくに障害をもつ方々への支援をはじめられた。花田先生は自宅が全壊になったにもかかわらず、センターの床に寝泊まりして、避難者と同じ炊き出しを食べ、昼夜を問わず訪れる取材や調査を受け、避難所の運営を指揮された。他大学が次々と避難所を閉じるなか本学の避難所に移ってこられる方々が多くなった。こうしたなか避難者の間で「ここも閉じるらしい」という噂がながれ、花田先生が「最後の避難者の行き先がきまるまで避難所は閉じない」と言い出された。私たちは正直「またはじまった」と思ったものだが、先行きのみえない避難者たちにとって安心して行き先を決めることができることにも繋がった。こうしたことは避難者のみならず避難所を運営するスタッフにも向けられた。運営する教職員や学生の疲れがピークとなった2日目、花田先生が掲示スペースに原田先生



カナダ グラッシーナロウズのバンドオフィスにて  
2012年6月2日撮影

が最後に書き残された「感謝、ご縁」という色紙を貼られた。涙があふれた。原田先生を知る教職員や学生はそれを見て「自然災害はどうしようもないが、ここで人災は出さない」ことが暗黙の了解となり45日間を乗り切ることができた。

原田先生は晩年、「花田君は水俣学にとって『五重塔』の源太たい。この人がおらんばできんかったとよ」とおっしゃっていた。その花田先生が退職された今、私たちは原田先生、花田先生の思いを引き継ぎ、水俣学のさらなる発展を目指していかねばならない。

先生が退職はされたものの、今後はシニア客員教授として活躍されることとなる。これまでのご尽力に心から感謝するとともに、まだまだ学ばせていただきたい。



フランスでの社会的企業（INFOBAT）調査（手前右）  
2014年3月10日撮影

## 花田昌宣先生の経歴・研究業績

## 経歴

- 1952年 大阪府生まれ
- 1979年 3月 名古屋大学経済学部卒業
- 1983年 3月 滋賀大学大学院経済学研究科修士課程修了
- 1987年 3月 京都大学大学院経済学研究科後期博士課程単位取得退学
- 1987年 6月 パリ第7大学経済学研究科高等研究学位取得
- 1987年 9月 フランス国立東洋言語文化研究所日本学科専任講師
- 1990年 9月 国立ルアーブル大学国際貿易学部専任講師
- 1992年 9月 国立パリ第13大学経済経営学部専任講師
- 1994年 4月 熊本学園大学社会福祉学部教授
- 2000年 熊本学園大学第一部社会福祉学科長（2001年まで）
- 2003年 熊本県部落解放研究会会長（現在に至る）
- 2005年 社会福祉法人くまもと障害者労働センター理事長（現在に至る）
- 2006年 熊本学園大学大学院社会福祉学研究科長（2009年12月まで）
- 2007年 学校法人熊本学園評議員（2010年7月まで）
- 2008年 熊本学園大学水俣学研究センター事務局長（2009年12月まで）
- 2010年 1月 熊本学園大学水俣学研究センター長（2023年3月まで）
- 2016年 学校法人熊本学園理事・評議員兼務（2019年7月まで）
- 2018年12月 企業組合エコネットみなまた代表理事（2023年11月まで）
- 2023年 3月 熊本学園大学を定年退職
- 2023年 4月 熊本学園大学シニア客員教授（現在に至る）

## 研究業績

## 著書・共編著・監修

- 『水俣学研究序説』（原田正純と共編）、藤原書店、2004、「水俣病被害補償にみる企業と国家の責任論」pp.271-312。
- 『水俣学講義』（共著、原田正純編著）、日本評論社、2004、「水俣学の開講にあたって－まえおきにかえて」pp.1-21、（共著）「被害補償の経済学」pp.283-308。
- 『水俣学講義・第2集』（共著、原田正純編著）、日本評論社、2005、「水俣学二期めで何が見えてきたか－いまの水俣について考える二、三のこと」pp.305-324。
- 『発達障害白書』（共著、日本発達障害福祉連盟編）、日本文化科学社、2006、「公的機関にお

- ける知的障害者雇用を問う」 pp.119-121。
- 『勃興する社会的企業と社会的経済』（齊藤縣三、鈴木不二一との監修）、同時代社、2006。
- 『水俣学講義・第3集』（共著、原田正純編著）、日本評論社、2007、「水俣学の展望－熊本学園大学の取組み」 pp.1-16、「水俣病のグローバルな視点－水俣学プロジェクト構想」 pp.241-266。
- 『水俣学講義・第4集』（共著、原田正純との共編著）、日本評論社、2008、「水俣学への誘い」 pp.1-22。
- 『「さいれん」復刻版』（山本尚友と監修）柏書房、2010。
- 『「さいれん」復刻版 第2回配本』（山本尚友と監修）、柏書房、2011、「解説 水俣を揺るがした一八七日間－新日窒労組安定賃金争議が照らし出したもの」 pp.1-15。
- 『「さいれん」復刻版 第3回配本』（山本尚友と監修）、柏書房、2011。
- 『「さいれん」復刻版 第4回配本』（山本尚友と監修）、柏書房、2012、「解説 労働者が行動を起こす時おのずから道はひらける」 pp.1-3。
- 『「さいれん」復刻版 第5回配本』（山本尚友と監修）、柏書房、2012、「解説 会社の存続・強化を訴えて」 pp.1-10。
- 『水俣学講義・第5集』（原田正純と共編著）、日本評論社、2012、「水俣病公式確認50年のいま 水俣学の課題」 pp.1-18。「差別と人権の視点からみた水俣病事件」 pp.269-291。
- 『日本発共生・共働の社会的企業』（共著、共同連編）、現代書館、2012、「第一章 社会的経済の意味と展開」 pp.8-35、「第七章 共生・共働を創る」（堀利和、白杉滋郎、斎藤縣三との共著） pp.164-182。
- 『「さいれん」復刻版 第6回配本』（山本尚友と監修）、柏書房、2013、「解説 チッソの逃走をゆるさない」 pp.1-7。
- 『ハンセン病講義－学生に語りかけるハンセン病』（大野哲夫、山本尚友と編著）、現代書館、2013。
- 『原田正純追悼集 この道を－水俣から』（共著、熊本学園大学水俣学研究センター・熊本日日新聞社編著）、熊本日日新聞社、2013、「水俣学と原田先生の最後の仕事」 pp.418-428。
- 『いのちの旅』（共著、原田正純著）、岩波書店、2016、「解説」 pp.201-222。
- 『いま何が問われているか：水俣病の歴史と現在』（久保田好生と編著）、くんぶる、2017、「第10章 被害の現場に身を置くということ 水俣学の構築の経験から」 pp.217-234。
- 『水俣病問題のいま（差別禁止法制定を求める当事者の声9）』（田尻雅美と編著）、部落解放・人権研究所、2017、「水俣病の現在と差別・偏見」 pp.5-11、「差別の事件史としての水俣病」 pp.83-127、「資料① 水俣病公式確認60年アンケートにみる差別と偏見の現状」 pp.130-141。
- 『不知火海の漁師聞き書き（水俣学研究資料叢書VI）』（編著）、熊本学園大学水俣学研究センター、2017。

『水俣に生きた労働者－チッソと新日窒労組の59年』（富田義典、チッソ労働運動史研究会と編著）、明石書店、2021。

## 論文

- 「障害者の就労と社会的企業－共同連と共働事業所運動に寄せて」『社会運動』304、2005、pp.25-34。
- 「水俣学研究センターの設立にあたって－負の遺産としての公害・水俣病事件を未来に活かすために」『環境と公害』35-2、2005、pp.46-50。
- 「水俣の負の遺産とその展望 50年後の水俣病事件」『部落解放研究くまもと』50、2005、pp.3-17。
- 「長期経過後のカナダ先住民地区における水銀汚染の影響調査（1975－2004）」（共著）『環境と公害』34-4、2005、pp.2-8。
- 「日本における社会的経済の可能性と現実性：社会運動の再定義から」『生活経済政策』111、2006、pp.8-13。
- 「水俣病事件研究の新展開に向けて：水俣学の課題ノート」『社会関係研究』11-1・2、2006、pp.143-167。
- 「大学に人権教育の取組み 熊本学園大学から（1）」『熊本県人教News』272、2006、pp.4-10。
- 「水俣学が提唱するもの」『環』25、2006、pp.285-289。
- 「大学に人権教育の取組み 熊本学園大学から（2）」『熊本県人教News』273、2006、pp.2-7。
- 「水俣病患者50年の闘いの歴史と今」『部落解放研究くまもと』52、2006、pp.3-10。
- 「水俣50年の教訓は活かされたか－環境被害に関する国際フォーラム報告」（共著）『環境と公害』36-3、2007、pp.45-49。
- 「水俣病50年の歴史と今－差別と人権の視点から」『部落解放』578、2007、pp.270-277。
- 「労働法と障害者自立支援法－就労継続支援A型事業をめぐる」『DPI われら自身の声』22-4、2007、pp.40-41。
- 「水俣病における差別の現実」『じんけん』311、2007、pp.11-17。
- 「福祉国家の変容とソーシャルワークの課題 フランスでの再検討を題材に（上）」『社会関係研究』12-2、2007、pp.57-74。
- 「人権侵害としての水俣病事件」『部落解放研究くまもと』53、2007、pp.120-133。
- 「27条（労働と雇用）とわれわれの課題」『福祉労働』117、2007、pp.80-87。
- 「熊本洋学校教師L.L.ジェーンズの被差別部落に関する記述によせて」『部落解放研究くまもと』56、2008、pp.77-83。
- 「水俣病終焉策と終わらない水俣」『環境と公害』39-1、2009、p.57。
- 「水俣病の社会史と水俣病特措法の経済学的批判」『環境と公害』39-2、2009、pp.13-19。
- 「チッソにおける労働組合運動と安定賃金争議：地労委斡旋をめぐる荒木講演に寄せて」『水

- 『水俣学研究』創刊号、2009、pp.53-60。
- 「部落差別の現実と課題：最近の差別事件と私の経験から」『部落解放研究くまもと』57、2009、pp.3-22。
- 「水俣学の創生と課題：事件をフィールドから捉えるために」『水俣学研究』創刊号、2009、pp.15-25。
- 「現場からのレポート 共働・共生と社会的事業所の制度化へー第二十七回共同連大会報告に寄せて」『福祉労働』129、2010、pp.126-131。
- 「チッソ労働運動史研究の経過と課題 研究会記録の公開に寄せて」（共著）『水俣学研究』2、2010、pp.101-111。
- 「部落差別は生きているー最近の差別事件と私の経験から」『佐賀部落解放研究所紀要』27、2010、pp.2-27。
- 「春夏秋冬 水俣の地の労働運動を記録せよ」『社会評論』160、2010、pp.2-4。
- 「対馬の部落についてー2010年対馬フィールドワーク報告」『部落解放研究くまもと』61、2011、pp.109-115。
- 「カナダ・オンタリオ州先住民地区における水銀汚染ーカナダ水俣病の35年間」（共著）『水俣学研究』3、2011、pp.3-30。
- 「水俣病被害史と原発事故ー水俣、福島、そして障害者」『福祉労働』132、2011、pp.154-162。
- 「マブタプット工業団地の拡張をめぐる諸問題の現状と課題」（共著）『水俣学研究』3、2011、pp.83-103。
- 「新日本窒素における労働組合運動の生成と工職身分制撤廃要求ー組合旧蔵資料の公開に寄せて（特集 水俣病事件と新日本窒素労働組合）」『大原社会問題研究所雑誌』630、2011、pp.1-13。
- 「今日の部落差別と解放運動の課題に寄せて」『部落解放研究くまもと』62、2011、pp.94-101。
- 「タイの産業公害と労働者の現状」『労働情報』854-855、2012、pp.16-19。
- 「カナダ先住民の水俣病と受難の社会史（第1回）」（共著）『社会運動』382、2012、pp.19-24。
- 「カナダ先住民の水俣病と受難の社会史（第2回）」（共著）『社会運動』383、2012、pp.41-45。
- 「カナダ先住民の水俣病と受難の社会史（第3回）」（共著）『社会運動』385、2012、pp.36-40。
- 「日本の近代化過程におけるハンセン病」『社会福祉研究所報』40、2012、pp.151-165。
- 「変革への意思が世界を変える」『生活経済政策』185、2012、p.3。
- 「水俣学の創成と原田先生の最後の仕事」『環境と公害』43-2、2012、pp.9-13。
- 「3・11と5・1：原田先生と水俣学」『環』51、2012、pp.62-64。



- 「水俣学の現在と課題」『保健師ジャーナル』68、2012、pp.1098-1102。
- 「原口先生との一〇年」『リベラシオン：人権研究ふくおか』147、2012、pp.76-81。
- 「大学における人権教育の取り組み 熊本学園大学から」『部落解放研究くまもと』64、2012、pp.69-100。
- 「変化を読む 56年を経た水俣病：水俣学の新たな取り組み」『Seeder』7、2012、pp.52-56。
- 「公害の原点、水俣病と福島：水俣学の視点から」『震災学』2、2013、pp.60-76。
- 「熊本県水平社創立をになった人々：今日に生きるもの」『部落解放研究くまもと』65、2013、pp.32-74。
- 「熊本県における近世部落史研究の到達点と課題」『リベラシオン』149、2013、pp.43-57。
- 「水俣病の教訓の内実を問う 国際水銀条約と水俣病最高裁判決」『社会運動』401、2013、pp.22-25。
- 「公害の原点、水俣病と水俣学（特集 食の自治と循環）」『地方自治ふくおか』57、2013、pp.42-52。
- 「熊本県水平社創立期群像」『リベラシオン』152、2013、pp.20-39。
- ‘Signs and symptoms of methylmercury contamination in a First Nations community in Northwestern Ontario, Canada.’ (共著) *Sci. Total Environ*, 468-469, 2014, pp.950-957.
- 「明治4年の道後温泉入浴差別事件：全国部落史研究大会報告に寄せて」『部落解放研究くまもと』67、2014、pp.78-92。
- 「いのちをつなぐ、東北、熊本：3.11以降の福祉と環境を考える（2012年6月福祉環境学フォーラム記録）『社会関係研究』19-2、2014、pp.87-91。
- 「第72回社会的企業研究会 福祉就労を超える社会的企業の可能性：社会的企業と障害者就労」『社会運動』412、2014、pp.48-54。
- 「水俣病は終わらない：どうしたらいいのか（特集「水俣病」を撃つ）」『Kumamoto：総合文化雑誌』6、2014、pp.123-127。
- 「水俣学関連資料管理・活用の現状と課題（特集 シンポジウム 市民活動記録管理の現状と歴史的課題：日本と韓国の事例を中心に）」『大原社会問題研究所雑誌』673、2014、pp.10-16。
- 「新日本窒素における工職身分撤廃過程と労使関係：水俣病と闘った労働組合の起点となった1953年争議（特集 新日本窒素の労使関係・労働運動の諸相（2））」『大原社会問題研究所雑誌』676、2015、pp.1-18。
- 「水俣学をつくる」『歴博』192、2015、pp.11-15。
- 「福祉就労を超える社会的企業の可能性」『社会運動』412、2014、pp.48-54。
- 「日本で被害が拡大する社会経済的要因－水俣病の経験から（足立明氏追悼シンポジウム（京都大学）記録）」『水俣学研究』6、2015、pp.11-30。
- 「差別禁止法を求めます：差別事例の調査から見えてくるもの（第7回）水俣病に関する差別の現状と課題」『ヒューマンライツ』333、2015、34-39。

- 「公式確認六〇年：なぜ水俣病が終わらないのか：差別と人権の課題として」『部落解放研究くまもと』71、2016、pp.62-77。
- 「水俣病を人権と差別の課題として（特集 水俣病差別の六〇年）」『部落解放』724、2016、pp.46-55。
- 「水俣病の六〇年：公害の経験をどう活かすか（水俣病、公式確認から六〇年）」『科学的社会主義』216、2016、pp.38-44。
- 「公害水俣病に対する差別の現在形」『ヒューマンライツ』338、2016、pp.2-9。
- ‘2014 Report on Research Results for Minamata Disease in First Nations Groups in Canada’（共著）『水俣学研究』7、2016、pp.19-34。
- 「障害者を受け入れたインクルーシブな避難所：熊本学園大学での取り組み」『福祉労働』152、2016、pp.124-130。
- 「熊本地震と障害者支援：避難所の経験から」『部落解放研究くまもと』72、2016、pp.2-77。
- 「水俣病60年、今残された課題と水俣病研究の教訓（特集 水俣病公式確認60年）」『環境と公害』46-2、2016、pp.40-45。
- 「被災者支援と人権保障」『ヒューマンライツ』344、2016、pp.3-11。
- 「水俣病は終わっていない：水俣病公式確認60年の現状と将来への課題—熊本震災をふまえて」『部落解放』736、2017、pp.15-23。
- 「被差別部落のライフヒストリー 家族3世代の聞き取り」（共著）『社会福祉研究所報』45、2017、pp.95-105。
- 「現在の部落問題の状況と課題について」『部落解放研究』74、2017、pp.23-39。
- 「インクルーシブな避難所と水俣学の経験：地域に根ざした学と社会運動」『現代思想』45-8、2017、pp.96-104。
- 「研究と実践をつなぐ新たな研究モードの創生：水俣学から熊本地震へ」『Social Design Review』9、2018、pp.10-21。
- 「現在の部落問題の状況と課題について（続）史資料と部落差別」『部落解放研究』75、2018、pp.120-146。
- 「公害被害と社会福祉の課題の方法論序説：水俣病事件の被害の社会的側面に関して」『水俣学研究』8、2018、pp.47-60。
- 「水俣避病院と水俣病：水俣病差別の理解のために」『部落解放研究くまもと』76、2018、pp.71-107。
- 「水俣病の学術と運動の担い手」『日本看護倫理学会誌』11-1、2019、pp.109-110。
- 「平成28（2016）年熊本地震と熊本学園大学避難所運営：避難所の方針と災害ソーシャルワーク実践の一考察」（共著）『社会福祉研究所報』47、2019、pp.169-185。
- 「追悼 羽江忠彦さん」『部落解放研究くまもと』78、2019、pp.3-6。
- 「水俣病公式確認60年アンケート調査結果総論」（共著）『水俣学研究』9、2019、pp.19-38。
- 「環境教育実践に利する水俣学アーカイブの構築」（共著）『デジタルアーカイブ学会誌』4、

- 2020、pp.65-68。
- 「基調講演 第3回国際フォーラムの課題：失敗の教訓を将来に活かす」『水俣学研究』10、2020、pp.42-47。
- 「排除しない避難所：熊本学園モデルの試み」『建設労働のひろば』116、2020、pp.29-32。
- 「感染症、洋の東西とその歴史：新型コロナによせて」『部落解放研究くまもと』80、2020、pp.3-6。
- 「2016年 熊本地震の自主的な避難所：インクルーシブな運営」『消防防災の科学』145、2021、pp.24-27。
- 「水俣学研究所の課題と水俣病事件の現在」『水俣学研究』11、2022、pp.43-52。
- 「熊本県部落出身家族のライフストーリー：2家族3世代の聞き取りから」（共著）『社会福祉研究所報』51、2023、pp.19-38。

### 講演・口頭発表

- 「水俣病の問題から何を学び、継承するか」日本学術会議第2部シンポジウム「地域住民の福祉環境とエンパワーメント」熊本学園大学、熊本市、2005.7.7。
- 「水俣学の創生と課題：事件をフィールドから捉えるために」障害学会プレシンポ、熊本学園大学、熊本市、2008.5.17。
- 「産業開発と公害：水俣病事件を鏡として」南京師範大学講演会、南京市、中国、2008.11.1。
- 「ソーシャルエコノミーの経験と地域の発展」『第8回ワーカーズ・コレクティブ全国会議記録集』2008、pp.44-53。
- ‘Role of People Movement: Experience from the Minamata Disease in Japan, What are the Lessons?’ Map Ta Phut Seminar、マプタプット市、タイ、2011.1.20。
- 「フランスにおける社会的企業と障害者の就労」障害者労働研究会総会、市民交流センターひがしよどがわ、大阪市、2011.6.5。
- 「水俣病の負の教訓と東日本大震災・福島原発事故」第28回天草環境会議、天草郡苓北町、2011.7。
- ‘Crise économique et sociale et Économie sociale en tant que l'alternative, Rencontres du Mont Branc’（第5回社会的経済モンブラン国際会議）、Majestic Convention Centre、シャモニー、フランス、2011.11.11。
- 「日本の社会経済的危機とオルターナティブとしての社会的経済：社会的排除と障害者運動の取り組み」2011年度日韓社会的企業セミナー（基調講演）、イルムセンター、ソウル、韓国、2011.11.17。
- 「今日の経済危機の中でのソーシャルエコノミーの課題：日本における社会企業の可能性」関西ベンチャー学会第11回年次大会（基調講演）、大阪市立大学学術情報総合センター、大阪市、2012.3.23。
- 「水俣学のとびら：水俣病と福島原発事故」日本地域福祉学会（第26回年次大会 基調講演）、

- 熊本学園大学、熊本市、2012.6。
- ‘Experience from the Minamata disease in Japan and Canada: What are the lessons?’ カナダ先住民の水俣病報告講演会、トロント、カナダ、2012.6。
- 「社会連携経済の制度的革新とフランス版社会的協同組合（SCIC）の10年」社会政策学会第125回秋季大会、長野大学、上田市、2012.10.14。
- ‘Precautionary principle and compensation for victims and sufferer: Face to the industrial pollution and disaster’ 第3回リスクコミュニケーション円卓会議、マプタプット、タイ、2012.12。
- 「胎児性水俣病患者と水俣学の課題」シンポジウム「胎児性水俣病が問いかける・公式認定50年後の今日から」熊本学園大学高橋守雄記念ホール、熊本市、2013.2。
- ‘From the experience of MTP and Minamata Disease: Some questions on the Precautionary principle and compensation for victims and sufferers: Face to the industrial pollution and disaster’ International Conference on Risk Communication and the Possibility Towards Constructive Solutions for A Healthy Future of Map Ta Phut、バンコク、タイ、2013.3。
- 「予防原則と被害補償に関するいくつかの問い：公害被害に直面して—マプタプットと水俣病の経験から」リスクコミュニケーションとマプタプットの健康的な将来のための建設的解決に向けた可能性についての国際会議、チュラロンコン大学、タイ、2013.3.1。
- 「水俣学をめざすもの：学的方法の革新」公教育計画学会（招待講演）、熊本学園大学、熊本市、2013.3.9。
- 「日本で被害が拡大する社会経済的要因—水俣病の経験から」京都大学経済学研究科シンポジウム「水俣病、アスベスト、胆管がん問題の社会経済的要因」京都市、2013.3。
- 「公害の原点、水俣病と水俣学」福岡県自治体研究所研究会、福岡市、2013.4。
- 「水俣病認定義務づけ訴訟最高裁判決に寄せて」日弁連水俣病シンポジウム、東京都、2013。
- 「水俣病に解決はあるか：水俣病をめぐる現状と課題」第30回天草環境会議、天草郡苓北町、2013.7。
- 「水俣病と水俣学の試み 環境施策、被害住民の現在と水俣学の国際的展開」第2回環境被害に関する国際フォーラム、熊本学園大学高橋守雄記念ホール、熊本市、2013.9.5-7。
- 「水俣病の経験と福島被害：水俣学からの問題提起」社会思想史学会全国大会、八王子市、2013.10。
- 「産業開発と公害被害：水俣病事件を鏡として」中国清華大学公共管理学院国際シンポジウム、北京市、中国、2013.11。
- 「水俣学関連資料の管理活用の現状と課題」法政大学大原社研・環境アーカイブス統合記念シンポジウム、東京都、2013.11。
- 「原田先生の足跡：水俣学の軌跡」大阪人権博物館シンポジウム「水俣病と向きあった医師たち」大阪市、2013.11。

- 「水俣病最高裁判決が拓いた水俣病事件史の新たな地平」第9回水俣病事件研究交流集会、水俣市公民館、水俣市、2014.1.12。
- 「新日窒における工職身分撤廃闘争と企業内賃金決定」社会政策学会第128回春季大会、八王子市、2014.6。
- 「水俣学の課題と展望：水俣病事件の多様な側面」福島大学うつくしま未来支援センター「東日本大震災を契機とした震災復興学の確立」研究会、福島市、2014.7。
- 「被害の現場に身を置くということ、水俣学構築の経験から」日本教育学会大会、福岡市、2014.8。
- 「カナダ先住民における水俣病調査結果報告（第一報）」第10回水俣病事件研究交流集会、新潟市、2015.1。
- ‘Lessons from the history of Minamata Disease and current challenges in the international community’ International conference, ‘Minamata@60: Learning from Industrial Disaster toward Sustainable Society and Environment（招待講演）、チュラロンコン大学、バンコク、タイ、2016.9.10。
- 「平成28年熊本地震と避難所運営に関する健康医療支援体制について」（井上ゆかり・田尻雅美・花田昌宣・下地明友・中地重晴・宮北隆志共同発表）第75回日本公衆衛生学会総会、グランフロント大阪、大阪市、2016.10.25。
- 「今なお解決をみない水俣病事件を次世代に『伝える』ネットワーク形成」（井上ゆかり、花田昌宣、守弘仁志共同発表）社会情報学会九州・沖縄支部2016年度研究会、九州大学、福岡市、2017.2.10。
- 「日本とカナダの水俣病問題の現状と課題」水俣病公式確認60年国際シンポジウム「カナダ先住民の水俣病と水銀汚染」熊本学園大学高橋守雄記念ホール、熊本市、2017.2.18。
- 「日本とカナダの水俣病問題の現状と課題－2014年調査を踏まえて」水俣病公式確認60年国際シンポジウム「カナダ先住民の水俣病と水銀汚染」水俣市公民館、水俣市、2017.2.19。
- 「日本とカナダの水俣病問題の現状と課題」水俣病公式確認60年国際シンポジウム「カナダの水俣病：オジブエ先住民の水銀被害の歴史と現在」和光大学ポプリホール鶴川、町田市、2017.2.22。
- 「『震災』熊本地震後の資料復旧と『公害』水俣病の記憶を伝える意味」（井上ゆかり、花田昌宣、田尻雅美共同発表）フクシマの復興の歩みを学術的視点から海外に発信するシンポジウム、コラッセ福島、福島市、2017.3.12。
- 「『公害』水俣病の記憶を伝える－水俣学の基底」（井上ゆかり、花田昌宣、田尻雅美共同発表）福島大学うつくしま福島未来支援センター研究会、福島大学うつくしま福島未来支援センター、福島市、2017.3.13。
- 「各国障害者の労働について」（共同）第35回共同連全国大会、ウランバートル、モンゴル、2018.7.26。

- 「公害発生企業における労働関係史：水俣病とチッソ」 経済理論学会、九州産業大学、福岡市、2022.9.17。
- 「戦後高度経済成長と同和対策事業」 第39回九州地区部落解放史研究集会、大分県教育会館、2022.7.28。
- 「水俣学とは何か：事件史の振り返り」 SSHプログラム、熊本県立鹿本高校、山鹿市、2022.11.4。
- 「企業の社会的責任：地域社会と人権の保障」 長崎県企業人権啓発セミナー、オンライン、2022.11.21。

### その他・ブックレット

- 『水俣学ブックレットNo.9 水俣からのレイトレッスン』（共著、熊本学園大学水俣学研究センター編）熊本日日新聞社、2013、「序章 水俣病の現在と課題」 pp.5-18、「第7章 カナダ先住民の水俣病と受難の社会史」 pp.97-126、「終章 水俣病の現在と水俣学の課題：私的覚書き」 pp.127-139。
- 『水俣学ブックレットNo.10 水俣病と向き合った労働者の軌跡』（井上ゆかり・山本尚友との共著）熊本日日新聞社、2013、「第1章 新日素労組の誕生と戦後期労使関係の特徴」 pp.7-12、「第2章 水俣を揺るがした一八七日間」 pp.21-41、「第4章 労働者が行動を起こす時おのずから道はひらける」 pp.85-105、「第5章 会社の存続・強化を訴えて」 pp.109-133、「第6章 チッソの逃走を許さない」 pp.135-152。
- 「被害の現場に身を置くということ：水俣学の構築の経験から（3.11以後の世界に教育学は何を提起するのか？）公開シンポジウムII, 発表要旨」、『日本教育学会大会研究発表要項』73、2014、pp.363-365。
- 『水俣学ブックレットNo.13 いのちをつなぐ ～水俣、福島、東北～』（中地重晴との編著）、熊本日日新聞社、2015。
- 『水俣学ブックレットNo.14 九州・熊本の産業遺産と水俣』（中地重晴との編著）、熊本日日新聞社、2016。
- 『水俣学ブックレットNo.15 水俣病60年の歴史の証言と今日の課題』（中地重晴と編著）、熊本日日新聞社、2016。